



船を一望することができた。

長柄交差点を左折し、逗葉新道に沿った旧道を歩き、森戸川に架かる大山橋を

第11回の林道てくてくは、三浦半島の林道を歩く。葉山町から逗子市にまたがる林道で、「三浦大山林道」と呼ばれていた道である。

コースは、逗子駅—桜山トンネル—長柄交差点—黄金橋—林道—二子山—南郷中—(バス) 逗子駅で、約8.5kmの「てくてく」。

### 地域の概要

三浦半島は50万年ほど前に陸地化した。凝灰質砂岩、泥岩からなる葉山層群を基層としている。

半島の北部は、多摩丘陵に連なり、南部は海岸段丘の台地で、脊梁部は林道のある二子山(207m)、大楠山(241m)、武山(200m)を中心とする3つの東西に延びる山塊が並行してある。西海岸は変化に富み景勝地も多い。

植生は、スダジイやタブノキに代表される常緑広葉樹林と暖温帯性の落葉広葉樹林、それにスギなどの植林地となっている。土壌は全体的に薄く高木になると風等で倒伏する木もある。

これらの自然環境の保全と再生、そして活用を図るために、大楠山を中心とした国営公園の設置を求める活動も行われている。

林道のある葉山町と逗子市は温和な気候と海浜の景勝、交通の利便性などから別荘地として知られ、近年は大規模な住宅地も造られている。契機となったのは、明治17年(1884)横須賀に海軍の鎮守府設置にともない、明治22年(1889)に横須賀線が敷設されて鎌倉と逗子に停車するよう

になったことや明治24年に葉山御用邸が造られたことなどによる。

まず、逗子駅(新逗子駅)から桜山トンネルを目指す。旧トンネルに平行して「新桜山隧道」が平成22年に完成している。

### 長柄桜山古墳群



ここでの注目は山の稜線。

平成14年に国の史跡指定を受けた「長柄桜山古墳群」がある。

4世紀に造られた全長約90mの前方後円墳が2基ある。古墳からは相模湾と東京湾が眺望できるとのこと。古東海道がこの地を通り、渡海して上総に至るルート上に位置することと関係があるのではないかといわれている。

そういえば明石海峡を見下ろす高台にある大規模な「五色塚古墳」も海上交通を支配した豪族の墓だと言っていたのを思い出した。

兵庫県で一番大きなその古墳に上ると眼下に狭い海峡と航行する

過ぎ、住宅地の中を道なりに進むと、ほどなく黄金橋。

林道は、ここから三浦アルプスと呼ばれている二子山山塊の中心を流れる森戸川に沿って遡る。

### 森戸川

森戸川は、全長約6kmの2級河川。かつては亀井戸川と呼ばれ、下流の橋にその名を残す。上流部は砂防指定地で路工が一部実施されているが、林道沿いは自然のままの溪流である。人家等はなく森からしみ出す清らかな水が静かに蛇行しながら流れている。

### 林道てくてく

林道の入り口に車両通行止めのゲートがある。人はゲート脇から入ることができる。かつて、この林道は葉山町森林組合が管理していたが、組合は平成20年に解散したため、ゲートの管理は「三浦大山作業道ゲート管理協議会」が行っているようである。

林道という名称もなくなり、作業道となっている。

森林組合は、森林所有者で構成され、現在の都市地域も含めて県内各地につくられていた。

しかし、林業の衰退に伴い、今は丹沢山麓に10の組合がある



だけとなっている。

林道は、谷底にあるせいか周囲の森林は深く、奥行が感じられ三浦半島にいるとは思えない。

### スギの植林地

溪岸や崖錐地形の緩斜面で土壌が比較的厚い所にスギが植林されている。樹齢は5・60年ほど経っているだろうか、梢も樹冠も丸みをおびて成長期は過ぎている。

木は、太さの割に樹高が高く、枝打ちか自然枯死落下か判然としないが樹冠まで高い。しかも、林内にはアオキやシダなどの下床植生が豊かで、他で見るスギ林の圧迫感が少なく、自然樹木に溶け込み一体的景観をつくっている。



三浦半島にこれほどまとまった植林地があるのかと驚かされる。

調べてみると逗子市と葉山町には二子山周辺を中心にスギやヒノキの植林地が約350haあり、民有林面積の22%を占めている。

かつて、この地でも林業活動が活発に行われていた証である。

長く育まれてきたこれらの杉の行くすえが気にかかる。

### 林道開設と現在の利用

林道（作業道）は、延長約2km、幅員3mほどで、昭和15年に起工し、翌年に完成した。

当時は木材等の林産物は軍需物資として重視され、昭和14年（1939）には森林法が改正されて、各森林組合に施業案の作成・実施や林道などの共同利用施設の設置

が求められ、そして昭和16年には木材統制令が出されるなど、戦時色を強めていた時代である。

そのような中で木材資源の利用と造成を目的に林道は造られたと思われる。



林道の勾配は緩く、森戸川の溪流を眺め、瀬音を聞き、時々小さな橋で溪流を横切り、カーブを曲がるごとに風景の変化が楽しめる。

まことにハイキングや散策に適した静かな道となっている。

私が訪れたのは5月半ばの日曜日。夫婦連れ、中高年の女性グループ。外国人の親子、健常者に引率された障害者の方々など、いろいろな人達が思い思いに歩いている。中でも多いのは、望遠レンズを付けたカメラを持つ探鳥家達。

この流域は「かながわ探鳥地50選」に選ばれており、この日も鶯の鳴き声がかしましい。



今の季節は、東南アジアから渡ってくる尾が長く優雅な「サンコウチョウ」がお目当てとのこと。

蛇籠の護岸工を過ぎると頭上を横断する三浦半島中央道路の橋が見えてくる。橋は自然環境に配慮してか総てフードで覆われている。

ここまでは車が入るが、あとは林道の幅と所々に横断排水溝や路側石積み、擁壁などを残しながらも、路面は草で覆われ、人の踏み跡だけの道となる。

多少の補修を加えれば車道としての使用が十分可能である。

堰堤を過ぎると林道の終点。

### 二子山を目指して

ここから登山道を歩き二子山を目指す。岩盤の露出した沢を歩き、横切り、右左と道を変えながら走り根を超えて行く少々急勾配の道である。

しばらく歩くと二子山にあるKDD葉山中継所に通じる車道に出る。そのすぐ近くで森戸川流域の山々が見下ろせる所に桜蔭会（神中、神高、希望ヶ丘高同窓会）が建てた植林解説板がある。

それによると、学校林として生徒達が昭和15年から19年にかけて、困難な条件のもとで杉や檜を3千本植林した。そして、今は環境保全や森戸川の水源涵養に資しているというものである。

この森づくりにも多くの人々がかかわってきた歴史があることがわかる。

林道も当初の目的はともあれ「林の道」として、その価値を十分に発揮していた。

条件にもよると思うが、森林の価値を総合的に高める道づくりの発想が必要であることを、今回のてくてくは教えてくれた。

左に行けば二子山。山頂にある展望台からは相模湾や東京湾が望まれる。引き換えし、南郷上ノ山公園の外周に沿った車道を下ると南郷中学校前のバス停となる。

（2011.5 瀧澤）